

きやまRESASデジタルアカデミー ～ビックデータでまちづくりを考えよう～

佐賀県 基山町立図書館

基本データ

所在地	三養基郡基山町大字宮浦 60-1
職員数	9人
うち司書数	7人
蔵書数	約115,000冊
利用登録者数	約17,000人
年間貸出冊数	約294,000冊 (児童用図書貸出数約107,000冊)

テーマ・活動のねらい等

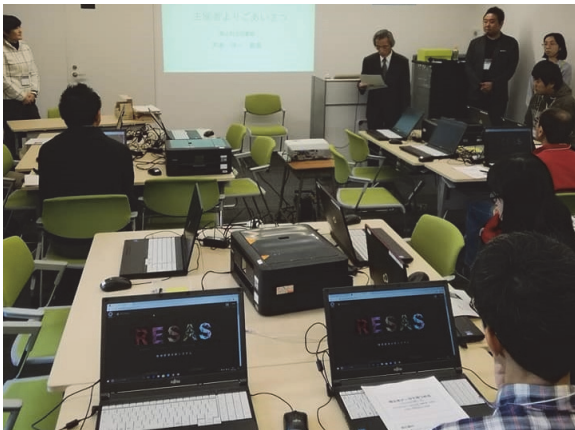
【テーマ】最新技術の導入、情報機器等の活用

【活動のねらい】

- 21世紀に必須となるデータの見方・活用の仕方を学んでいただくとともに、少子高齢化が進むまちの問題を自らのこととして認識していただく。更に本・行政資料・インターネットなどの幅広い情報を活用しながら、地域の課題を主体的に考えていく人材を育成し、最終的に地域を活性化していくことをねらいとした。

取組・活動の概要

- 少子高齢化が進む基山町の町民に、経済産業省と内閣官房が提供する地域経済分析システムRESAS（リーサス）を使って、町の状況及び将来の予測を見ていただいた。
- 参加者は高校生から81歳の高齢者を含む14名。一人1台パソコンを用意し、各自で操作を行っていただいた。



RESAS 操作研修

- 感覚ではなくデータで町の状況を見ていただき、そこから見出された地域の課題を、3つのグループに分かれて検討した。その後、図書館の本・行政資料・インターネットの情報を参考にしながら課題の解決策を考えていただいた。



図書館の本、行政資料等の参考本の展示

- 最終的にはそれぞれの課題解決策を町長に提案し、講評を受けた。



課題解決策の提案

- 2018年度きやまRESASデジタルアカデミーの開催スケジュールは、RESASの操作研修・町の分析（10月）、分析に基づいた課題解決策の作成（11月）、町長への提案（12月）。

取組・活動の工夫や特徴

- RESAS の操作をわかりやすく学べるように、操作研修にしっかりと時間を割いた。
- 課題解決策の作成には、全国の様々なまちづくりの事例が書かれた本が参考になったが、それらの本の展示やブックトークを行うことで利用を促進した。
- 事業内の限られた時間の中で、様々な情報を探すためには、図書館司書のレファレンス・スキルが役立った。

取組・活動の成果や今後の展望

- 参加者から長年感じていた町のイメージと、データでみる実際の姿に、結構な違いが見られたとの感想があった。
- 事業を通して参加者にデータで見る習慣やプレゼンのスキルが身に付いた。また町を調べることで今後の少子高齢化がかなり深刻であることに気づき、事業終了後もまちづくりについて学び続けられる住民の方もおられた。最終的にグループとして3つの提案があった。
- 当事業の取り組みを引き続き行っていくことで、地域の将来を考える人材を育て、主体的で民主的なまちづくりに繋げていきたい。

